



地域と医療のコラボレーション

ハーモニー

Harmony ♪

第16号

2009 / October

発行 / 医療法人社団協友会 東大宮総合病院

編集 / 広報委員会

〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮5-18

TEL 048-684-7111 FAX 048-686-3614

<http://www.higashiomiya.or.jp/>

特集

当院にて医学部学生の臨床実習

東大宮総合病院 外科部長 梅本 淳

こんにちは、外科の梅本です。東大宮総合病院は20余りの各種学会の教育施設認定を受けている病院です。そして当院の医学部学生教育における目標は、将来医学を通じて社会に奉仕し貢献するすぐれた医師として育てるべく基本的な臨床能力および研究能力をそなえさせることでもあります。

この度、徳島大学から2名の5年次医学学生が臨床実習のために当院へ派遣されてきました。6月8日から4週間にわたった実習では、外科手術やカンプアレンスに参加したり、豚の生組織を使つての縫合、吻合などの基本手術手技やドライラボでの腹腔鏡手術手技のトレーニングを行ったり、心臓カテーテル検査・治療や上部・下部内視鏡検査の見学、放射線画像読影や病理検査の集中トレーニングを行いました。さらに、11コマに及ぶスタッフの先生方の講義や、大宮で期間中に開催された2つの医学研究会に参加しました。

最終日の臨床実習の締めくくりとしては、豚の肝臓を用いての腹腔鏡下胆嚢摘出術を実践しながらにしてもらいました（T社協賛）。医学生によるこのような試みは、全国広しといえど当院での今回の試みが本邦初です。その後、院長や関連ドクター、事務スタッフの方々にも集まっていただ



豚の肝臓を用いての腹腔鏡下胆嚢摘出術実習

き、学生達の反省会が催されました。学生たちは「将来、医師になるうえで貴重な経験を得ることができた」と当院の手厚いサポートに大いに感謝して病院実習を終了しました。以上のように、実習中の4週間は彼らにとりかなり濃密な内容でした。このような立派な実習スケジュールが組めたのは院長、事務長、各医師をはじめ、コメディカル、事務スタッフの皆様全員の協力のためです。受け入れの担当者としてこの場を借りましてあらためて御礼申し上げます。

診療科だよ

神経内科



神経内科 医師
福澤 恵

パーキンソン病

パーキンソン病の語源は、発見者のジェームス・パーキンソンの名前に由来しています。

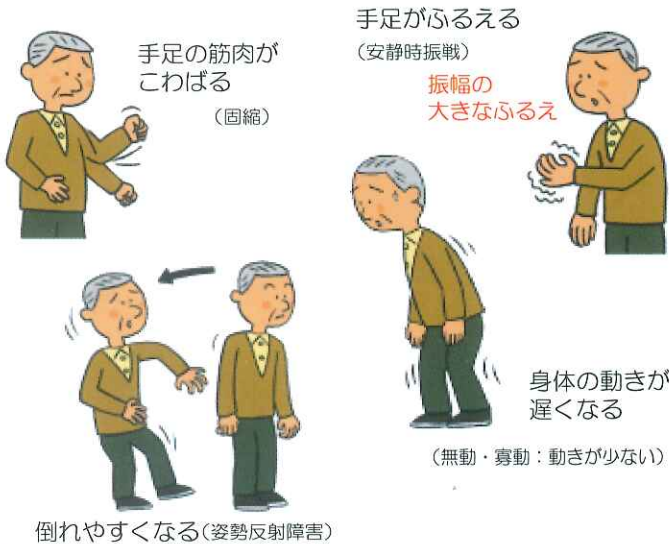
ジェームス・パーキンソンは1755年イギリスのロンドンに生まれた医師で、神経学の専門家ではありませんでしたが、手や足が振るえ、様々な部位の筋肉が硬くなり、後には体を動かすことが出来なくなるといふ原因不明の症状を呈する症例を多数経験し、1817年62歳のときに『振戦麻痺に関する論文 An Essay on the Shaking Palsy』として発表しました。神経学分野の歴史的名著とされています。

パーキンソン病は人口十万人あたり約百人が発症すると言われており、比較的よくみられる疾患です。近年、パーキンソン病患者数が増加の一途をたどっています。これは、パーキンソン病の発症者が圧倒的に高齢者に多く、高齢化社会に反映しているためです。

パーキンソン病は脳の中脳黒質・青斑核の変性によりドパミンという神経伝達物質が減少して発症します。病理学的には、中脳黒質・青斑核のメラニン含有細胞が脱落してLewy小体(レビー小体)と呼ばれる封入体が出現します。この黒質の変性がなぜ起こるのかについてはまだ完全には解明されていません。パーキンソン病の多くは孤発性で遺伝性はありませんが、約5〜10%で遺伝性・家族性発症が認められています。近年、様々な研究により原因遺伝子が多数同定されるようになり、病態解明や遺伝子治療につながるものと期待がよせられています。これらは、家族性パーキンソン病と呼ばれ、通常のパーキンソン病とは区別をしています。その他、ある種の薬剤や脳血管障害・正常圧水頭症・脳腫瘍・一酸化炭素中毒などでもパーキンソン病に類似した症状を認めることがあります。これらはまとめてパーキンソン症候群(パーキンソニズム)と呼ばれています。

パーキンソン病の主な症状は、安静時振戦・鉛管様筋固縮・無動(寡動)・姿勢反射障害といった運動症状です。これは4大徴候と呼びますが、これらは同時に現れるわけではなく徐々に認められ進行していきます。症状は、左右どちらか一方の四肢の安静時振戦ではじまることが多く、「テレビを観ていてふと見たら膝の上に乗せている右手が振るえていた」というようにして気付かれたりします。そして徐々に身体の動きが硬くぎこちなくなり(鉛管様筋固縮)、動作の開始に時間がかかりゆっくりとしか動けないようになります。(無動・寡動)。口の動きが小さくなる「小声症」、表情筋の動きが乏しくなる「仮面様顔貌」、字を書く動きが小さくなる「小書症」、歩幅が小さくなる「小刻み歩行」というような症状が現れます。姿勢反射障害は、身体が傾いたときに姿勢を立て直す姿勢反射の障害で、病期がある程度進行してから認められ、転倒の原因になります。パーキンソン病では立位時の重心が後方にずれるので、代償性

パーキンソン病の主な症状



に前かがみの前屈姿勢になるといわれています。その他、歩行開始時に足がすくんで前に出られなくなる「すくみ足」や、歩いているうちに徐々に前屈姿勢が強くなり小刻みに走り出し何かにぶつかるとまで止まらなくなる「突進現象」と呼ばれる症状がみられます。また、通常は無意識に自動的に行っている瞬き（まばたき）や唾液の嚥下、歩行時の上肢の振りなどの運動の減少がみられます。唾液の嚥下運動の減少は、流涎（よだれ）が多くなる原因になります。

パーキンソン病ではこのような運動症状が主症状ですが、近年の治療薬の進歩により、長期に渡り加療を受けている長期罹患患者さんや、人口の高齢化に伴って高齢発症の患者さんが増えたことで、非運動症状として抑うつ症状・認知機能障害・幻覚妄想・自立神経障害・感覚障害（疼痛・味覚障害）・Restless-Leg 症候群などと呼ばれる症状が目立つようになりました。これらは運動症状よりも対処が難しく、患者さんや介護者のQOL（生活の質）を低下させる要因となっています。特に抑うつ症状や認知機能障害・幻覚妄想などの精神症状は、高齢であるほど出現しやすといわれています。これは、脳の加齢性変化や血管障害の存在も加わってくるためと思われます。自律神経障害としては、頑固な便秘や排尿障害、起立性低血圧によるめまい、失神発作などがみられます。Restless-Leg 症候群は、主に夜間（とくに就寝中）下肢に見られる不愉快なむずむずする異常感覚で、不眠の原因になることが問題です。

パーキンソン病の治療

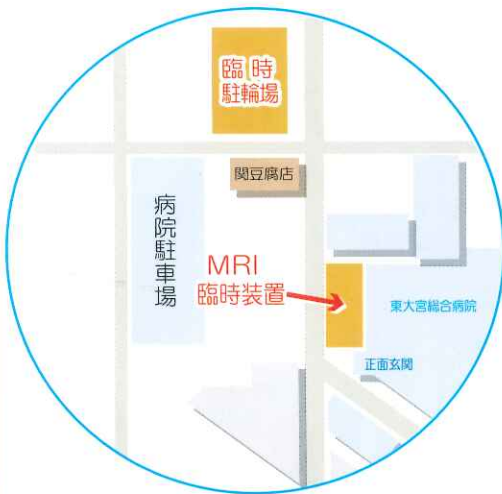
このような症状で来院され、パーキンソン病と診断された場合の治療は、薬物治療が主体になります。主に脳内で低下しているドパミンの補充またはドパミンの作用を補助治療を行います。治療を行うことで今まで通りの日常生活をほぼ維持していくことが出来、平均余命は一般人口とほとんど変わらないといわれています。ただし、長期の薬物治療により様々な副作用や随伴症状が出現する可能性があることも事実です。骨折や肺炎を契機に寝たきりになる場合もあります。

そうならないために、リハビリテーションはもろんのこと日常生活の様々な工夫が必要になってきます。これは決して難しいことではありません。病気がしつかり向き合っ「あせらず・あわてず・あきらめず」の気持ちで、前向きに治療に取り組むようにしましょう。

不安や疑問があるときは遠慮なく主治医に相談してください。主治医を信頼して、一緒に病気と付き合っていくことが出来たら、きっと充実した療養生活が送れると思います。

より良い病院を目指して

MR I 装置入換工事に伴うご協力のお願い



この度、MRI装置の更新購入をします。それに伴い、この工事期間中、駐輪場が移動します。駐輪場だった場所には、バス式の臨時MRI装置を設置することになり、患者様には大変お手数ご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解ご協力をお願い致します。なお、今後はMRI撮像時間短縮と良質な画像撮影で、医療の質の向上に繋げていく予定です。

【期間】
平成21年10月23日～11月23日

予定が変更する場合がありますので、予めご了承ください。

内視鏡センター移設のお知らせ



10月13日より、内視鏡センターは以前歯科口腔外科があった所へ移設しました。今まで別室にあったリカバリ室は内視鏡センター内に設置し、ゆったり休憩できるよう、リクライニングソファ3台を導入しました。

おわりに

余談ですが、モーツアルトの曲を聴くことで脳内のドパミン生産量が増加するという報告があるそうです。

モーツアルトの曲は、もしかしたらパーキンソン病の症状改善にも効果があるのかもしれない。



歯科口腔外科が移設しました

9月28日(月)より
東大宮総合病院正面玄関の隣のビル(1階)に
移設しました。



治療室の中は診察台毎にパーテーションで仕切り、今まで以上に患者様のプライバシーが守られるよう、細やかな配慮をしました。

親知らずの抜歯をはじめ、顎口腔領域の外傷や腫瘍、炎症、嚢胞、唾液腺疾患、顎関節症、口腔乾燥症、インプラントなど口腔外科治療を行っております。また全身的な疾患をお持ちの方には医科との連携を緊密にし、安心して治療ができるよう努力しております。治療に対して極度に恐怖心をお持ちの患者様には、笑気吸入鎮静法や静脈内鎮静法を行い、リラックスして治療が受けられるよう各種医療機器を完備しております。

当院での診療は「予約制」となっております。
受診の際にはあらかじめ電話によりお申し込みください。

予約受付番号 048-687-1422

～お詫びとお知らせ～

虫歯や義歯といった一般歯科治療につきましては、予約が非常に取りにくい状況となっております。大変申し訳ございませんが、治療をお急ぎの方は近隣の歯科医院受診をお勧め致します。

当院の 数字アラカルト

外来患者数	659.3人/日
入院患者数	235.9人/日
在院日数	16.0日
ベッド稼働率	74.4%
救急件数	226.4件/月
手術件数(全麻)	92.0件/月
心臓カテーテル検査件数	38.4件/月
内視鏡件数	334.6件/月

平成21年4～8月平均

あなたは大丈夫？

10月は乳がん月間です

日本の女性の20人に1人が乳がんになるといわれています。
乳がんの早期発見・早期診断・早期治療には正しい知識が必要です。
毎月のセルフチェックで乳がんを早期に発見しましょう！

おかしいな？と思ったら…

当院では毎週火曜日(午前・午後)、
木曜日(午前)に乳腺外来を
行っております。
お気軽にご相談ください。

昨年、乳がんの早期発見・早期治療を
呼びかける「ピンクリボン in ウォーク」
に当院の外科 井寺医師と放射線技師が
参加しました。



編集後記

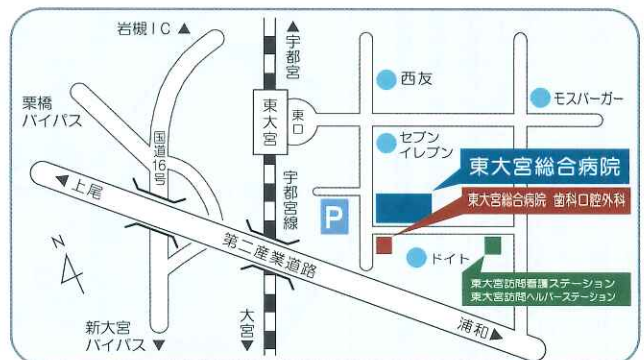
7月中旬の訪問看護ステーション、ヘルパーステーションの移設を始め、今回は歯科口腔外科の移設が完了しました。10月中に内視鏡センターの移設、透析は4床の増床を予定しています。この期間、工事の騒音などで皆様にはご迷惑をお掛けしますが、ご理解ご協力の程よろしくお願い致します。

医療法人社団協友会



東大宮総合病院

〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮5-18
TEL 048-684-7111 FAX 048-686-3614



JR宇都宮線「東大宮」駅 下車
東口より徒歩3分